

山行番 NO. 1613B  
日時 2014. 10. 18 (土) ~ 19日 (日)  
山域 鳳凰三山 (最高峰=観音岳2841m)  
参加者 L 後藤、千葉、浜道、川辺 (ゲスト)、勝又陽、勝又薫 (両勝又中道標高約2000mまで)  
参加費 3500-

## 1日目

コース 下土狩発5:00-中道登山口発8:04-地藏岳展望9:15-勝又下山11:00-薬師岳  
12:50-観音岳13:27-鳳凰小屋分岐14:05 (後藤下山)-地藏岳15:05-オ  
ベリスク登頂15:16-後藤鳳凰小屋15:00-地藏班鳳凰小屋15:52 (注=中道上り  
で約40分ロスタイムあり)  
標高差 上り 中道登山口約1242m~観音岳2841m=約1599m  
下り 観音岳2841m~鳳凰小屋約2382m=約459m

今回、ゲストで麗峰山行に2回目の参加。南アルプスは初めてなので楽しみ!参加者はCL Gさん、SL Tさん、K夫妻、Hさん、私Kの6人。CLとSLはテント泊、残り4人は小屋泊予定。いきなり私が登山靴を忘れるハプニング (汗) 幸い、CL Gさんの靴に中敷を2枚入れてもらいお借りすることが出来て良かった (今回、足の痛みはなく自分の靴より具合が良かった)。

6人で下土狩5:00出発。山梨に入ると青空の中、南アルプスが見えてくる。本日、目指すオベリスクが白い山肌の上に槍の様にとがっているのが見える。中道登山口で準備をして出発。CLが私のカップ麺を見てQ「いつ食べるの?」A「お昼です」「そんなゆっくりしている時間はないよ」と言われ、2個持って行くが食べずじまい。カップ麺は行動食ではないようだ。休憩時間を長く取ると体が冷えて動けなくなるのもあるようだ。

8:00 スタート直後、CLが時計周りを提案。当初、青木鉦泉から登って中道から降りる予定だったが急遽、中道から登ることとなった。急登をひたすら登る。途中、少し開けた場所で、オベリスクが天を突いていた。

スタートから2時間半ほどしてK夫妻の奥さんの両足が痙攣する。何度か休憩し進むが、座り込んだまま動けなくなった。少し休むと寒さを感じる程の気温が影響あったかも知れない。体が冷えるので暖めるため、ズボンを2枚履いたり、Tさんが白湯を沸かし飲んだり、Hさんの献身的なマッサージでも一向に回復の兆しはなく厳しい感じ。

結果、薬師小屋までは標高差600mあるため、残念ながら旦那さんと一緒に下山することとなった。車でホテルに行き翌日、迎えにきてもらうことにした。ただ、後で冷静に考えたら、コンロ・レスキューシートを持って行って貰うべきだったと反省。しかし、13:30頃無事下山の連絡が入った。思った以上に早く下山出来て、みんな一安心。

3時間半ほど登ると中道、唯一の見所、御座石。巨大な石がひさしのように雨宿りできそう。さらに進むと木の間から薬師岳の白い山肌が見える。これから先、階段状の激坂が続く。休憩時、Hさんから皮ごと食べられるぶどうの差し入れ。みんな絶賛。ぶどうってこんなに甘かった?

激坂は、最後まで続いた。周りの木が岳樺・ハイマツに変わり青空が広がる。その先に巨大な岩



中道登山口



地藏岳遠望



御前橘



御座石



稜線の氷



薬師岳最高峰直下



と白砂。薬師岳に到着。青い空と白砂青松の山。唐松は紅葉し黄色に変わっていた。

ここからは、鳳凰三山尾根沿いの縦走コース。激坂の疲れも忘れてしまう。下から見た白い山肌は花崗岩が砕けた風化した白砂だった。尾根沿いに白砂がずっと続いている。スキー場のゲレンデのようにも見える。

これに、黄色の天然唐松・ハイマツと花崗岩のコントラストが日本庭園のようで絶景。鳳凰三山最高峰の観音岳（2841m）360度の大パノラマ。北岳・仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳の南アルプスが一望。地蔵岳への稜線が美しい。オベリスクも見えている。地蔵岳と鳳凰小屋へ分かれる分岐で CL G さんはテントの場所取りに小屋へ向かい残り3人は地蔵岳に向かう。

巨峰オベリスクが見えてくる。とてもカッコいい岩の塔。オベリスク下の賽の河原には甲斐駒ヶ岳を背にたくさんの地蔵が並んでいる。反対側には雲に浮かぶ富士山が見えていた。ザックを下ろして皆でオベリスクにアタック。

基部まで行くが、その先は手を掴むところ、足の置き場がない。最後は垂直な壁をロープ1本で登る。これはムリ。Tさんが登頂に成功。下から拍手が聞こえる。Tさん「先月の北方稜線よりも厳しかった」とのこと。その後、女性が1人登頂した。クライマーだろうか？凄い！オベリスクで楽しんだ後、HさんにCLから電話「早く小屋に来るように！」急いで小屋に向かう。オベリスク下の白砂に深く足が沈む。富士山の大砂走りのようだ。登りでなくて良かった。

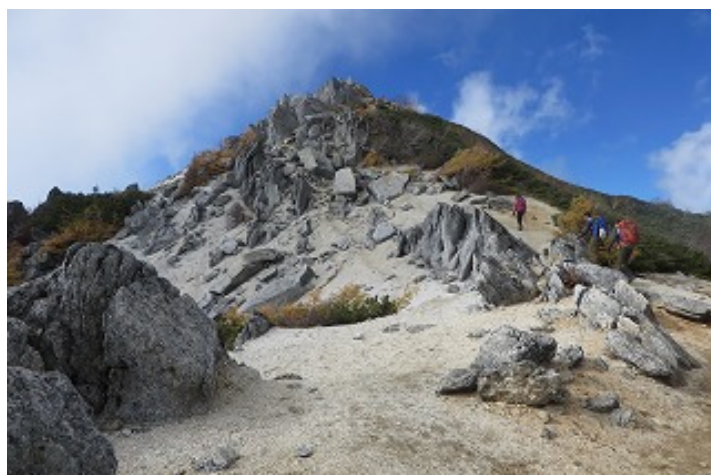
小屋は混んでいて、布団2枚に3人が寝る感じ。テントも混んでいたが早めに行ったため、入り口の良い場所を確保できた。小屋に着くと CL G さんは外のテーブルで若い山ガール2人、おじさん2人と楽しく飲んでいる。18時の夕食までは1時間半ほどあり、それまで一緒に楽しく団欒。山ガールとおじさん達は別グループと判明。山小屋で一緒にいると同じ仲間に見えてしまう。夕暮れの山小屋のお酒は格別にうまい。

持参した1.8LのワインやHさんの手作りおつまみもなくなり、私とHさんは夕食の時間。メニューはカレー、スパイスが効いていて美味しい。お代わり自由だったので、お代わりしてお腹一杯。テント組はステーキ、豚汁を美味しく頂いたよう。

その後、テントに入り熱燗などをもらい、まったり4人で飲む。テントは4人用で広くて快適。ガスストーブもあって暖かい。すっかり飲みすぎ早々にダウン。20:30に小屋に戻り消灯。今回も楽しく登山をさせて頂きありがとうございました



薬師岳最高峰



観音岳に向かう



左上は観音岳頂上、バックは北岳



オペリスクでバンザイ



記念撮影



鳳凰小屋



## その他の記述（L後藤）

1. 車で林道を青木鉱泉分岐から中道登山口に上って行くと、4名のオジサンが歩いていた。後で聞いたら車を青木鉱泉に置いて来たという。中道登山口まで、青木鉱泉から下り約50m、上り約210m。鳳凰岳まで上り約1800mは厳しい。林道に車が入れるかどうか、知らなかったとのこと。ただ、オジサン達は、鳳凰小屋泊だった。
2. このオジサン達は中道経由で上った。よく考えてみると、反時計回りの鳳凰三山は鳳凰小屋で宿泊。その日、時間があるから地蔵岳を往復する。翌日、地蔵岳をパスして直接観音岳に上るが、トータル2回上り、1回下りは、明らかに無駄な行程である。  
ならば、中道経由・反時計回りならば全て問題は解決される。ただ、問題はドンドコ沢を青木鉱泉まで下らず、途中、中道登山口に上手くトラバース出来るかどうか。ネットでは大崩壊地上の堰堤を渡る記録がある。今回も行けるか模索したが、水量が多く厳しい状況だった。反時計回りの場合、車が2台あれば問題ないが1台の場合、課題を残す。

+

ドンドコ沢大崩壊地の  
大堰堤  
実際渡る仮定の堰堤は、  
この上部の堰堤



3. KKさんの痙攣は残念だった。痙攣は特効薬がない。横にして温め、塩分を補給し、マッサージを施す。ただ、山中では十分な措置は出来難い。痙攣は体質がある。痙攣しやすい方は、普段から筋肉を鍛錬し、水分を多めに摂取し、行動中、特に休憩時体を冷やさない工夫が必要。ちなみに、この日の13時で、薬師岳水たまりに氷、観音岳日蔭には先日の残雪があった。やっぱり晴天でも、気温は低いと感じた。
4. 薬師岳最高峰にいた、オジ・オバサン達数名は、三山を鳳凰小屋・薬師小屋2泊の計画と聞いた。己の体力に合った登山計画。それは「事故を未然に防ぐ」肝心なことです。私達もいつか辿る道かも知れませんね。(笑い)
5. 鳳凰小屋での交流会は楽しかったです。前回はモーレツに寒かったですが、今回は、それ程では、なかったです。



東京のFさん撮影  
眼鏡はHさん



我が隊のKさん、Tくん  
左からFさん、Iさん、Kさん

